



日本遺産認定記念

特別展

薩摩の 武士が また 町



木本 鹿

ふもと

— 絵図に見る鹿児島近代史 —

「蒲生城古図」(鹿児島県立図書館所蔵)
「薩藩御城下絵図」(鹿児島県立図書館所蔵)

令和2年

10月9日(金) から 11月23日(月)

開館時間 午前9時～午後5時 (入館は午後4時30分まで)

休館日 月曜日
(祝日の場合は開館)

入館 無料



始良市歴史民俗資料館

〒899-5421 TEL 0995-65-1553
鹿児島県始良市東餅田498番地

日本遺産
薩摩の武士が
生きた町

武家屋敷群
「麓」を歩く

江戸時代、薩摩藩は外敵からの攻撃に備え、本城である鹿兒島城（鶴丸城）を中心に、県内各地に外城を配置し、武士団を住まわせていました。これは「外城制度」と呼ばれ、薩摩藩独特の体制でした。

外城の中心である「麓」と呼ばれる武家屋敷群は、防御に適した場所に作られ、門と玄関の間に生垣を配置する等、まるで城のような構造を持っていました。

始良市内には、5つの麓（加治木・帖佐・重富・山田・蒲生）があり、日本遺産には蒲生麓が選ばれました。

蒲生麓 ※この他に6つの構成文化財があります。



蒲生麓（西馬場）

麓は9本の馬場と3本の小路で整然と区画割されています。現在は、西馬場に武家門をもつ武家屋敷群が残ります。



蒲生御仮屋門（県指定文化財）

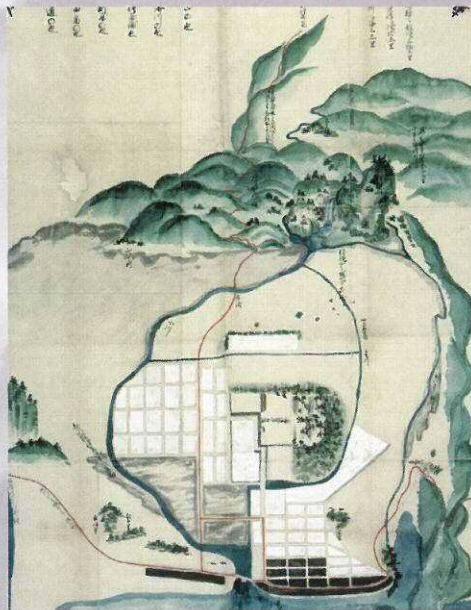
江戸時代、蒲生郷の政治・行政の中心であった地頭仮屋の正門です。控柱付腕木門で文政9年（1826）に建てられました。



蒲生八幡神社

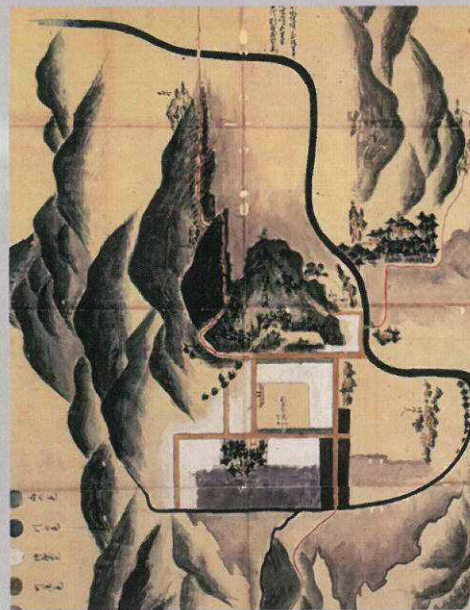
保安4年（1123）に蒲生氏初代舜清が豊前国宇佐八幡を勧請し創建しました。麓の北西端に位置する蒲生の総社です。

『薩藩御城下絵図』（鹿児島県立図書館所蔵）に描かれた城下と麓



加治木

慶長12年（1607）、島津義弘が居館（現・柁城小学校）を中心に計画的に整備しました。



伊集院

戦国島津氏の拠点山城「一字治城」の山麓に居館（現・伊集院小学校）があります。



鹿兒島

寛文10年（1670）頃の鹿兒島城下の様子。城下絵図では最古のものです。